

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4072500483		
法人名	株式会社 松寿		
事業所名	グループホーム松寿苑		
所在地	福岡県大川市大字本木室1005 - 8 (電話) 0944 - 86 - 2437		
自己評価作成日	平成 29 年 9 月 24 日	評価結果確定日	平成 29 年 12 月 13 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な生活が出来る雰囲気作りに努めています。掃除や洗濯物干しをしたり、たたんだり、調理では食材の下ごしらえをしたり残存機能を活かしながら、好きなように毎日の生活を送って頂けるように支援しています。入居者様同士の交流もあり、隣の棟でおやつを食したり、カラオケで歌ったりもしています。また、時々、職員の子どもと一緒に楽しい時間を過ごしたりしています。苑の駐車場でバーベキューを楽しんだりします。（この時は、食の細かい方でもいつもより食されます）今年は、手巻き寿司パーティーにするか、バーベキューにするか、サンドイッチパーティーにするか、入居者様と話し合いながら決めていこうと思います。このようにみんなで話をしながら決めていきます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
-------------	-----------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 29 年 10 月 13 日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所は田園風景が広がるなかに位置する家庭的な木の温もりを感じる和風棟と日当たりがよく広々とした洋風棟の2ユニットである。下和風棟の玄関にはソファやテーブルが置かれ、利用者が日向ぼっこや談笑をしてゆったりと過ごすスペースになっている。家庭的なあたたかさを感じて生活できることを大事にしている。近年は看取りに取り組み、利用者らしく最後まで生活できるように支援されている。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【1 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基本とし玄関・リビング・事務所の見える所に掲示し入居者が安心して暮らせるよう実践・行動に努めている。	具体的な言葉で地域密着の視点を入れた事業所独自の理念がある。理念は玄関に掲示され、朝の申し送り時に唱和している。日頃の声かけや介護に日々理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の方たちが集まる、「木室たんぼぼの会」に参加し交流している。	自治会には加入していないが、地域行事の敬老会に参加したり、施設の秋祭りに地域の人が参加している。近所の方が施設の木が伸びているのを見て、木の枝を切ってくれたり、散歩の時は挨拶をしたり花や植木を渡す、近所の人から野菜をおすそ分けしてもらおう等地域の人と関わりをもっている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「木室たんぼぼの会」での発表などを行っているが、地域貢献出来てるとは言えない。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、会議の意見を取り入れサービスの向上に努めている。	運営推進会議は2か月に1回開催している。利用者・家族・行政職員・地域住民他地域密着サービス事業所からの参加もある。会議の中で利用者やサービスの状況や評価の取り組みの報告をしている。会議の中で内服管理や受診について等、出た意見をサービスに活かしている。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり分からない事や困った時に相談している。	日頃から行政に行き来する機会が多い。行政窓口・メール・ファックスで状況報告や相談をしている。小規模多機能施設で看取りの話をしたり、認知症サポーターに参加をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族への説明を行い了承をへて、見守りが手薄な時間帯や状況によって施錠する事があるが、しなくてもいいように取り組んでいる。	玄関や居室は施錠していない。職員は利用者の外出傾向を把握し見守り・声かけをしている。身体拘束のマニュアルは整備されている。身体拘束に関する内部研修はされておらず、外部研修の参加はない。	身体拘束に関する内部研修の開催や外部研修の参加をお願いしたい。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	入浴介助時やトイレ誘導時に、身体確認し小さな傷やアザがあった時は上席者に報告し記録に残すようにしている。又、言葉使いに注意するように努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり勉強会を行う事により理解出来るように努めている。	権利擁護に関するパンフレットは準備され、契約時や必要時家族に説明している。職員は権利擁護に関する概要は知っているが、内部研修の開催や外部研修の参加はない。	権利擁護に関する内部研修の開催や外部研修の参加をお願いしたい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に家族や利用者に説明を行い理解・納得を図っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に置いたり、面会や支払いに来られた時に意見や要望を聞くようにしている。	日常生活の中で利用者は自分の意見や希望を職員に伝えている。本人が食べたい物を食事のメニューに取り入れたり、行きたい場所に外出をする等利用者の希望を取り入れるようにしている。家族面会時に利用者の状況報告と意見や要望を聞くようにしている。「居室から出てくるようにしてほしい。」「足腰が弱ってきたので付き添ってほしい」等家族の意見を介護に反映するようにしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の会議や毎日の申し送り時に意見交換を行い、反映出来るように努めている。	自己評価は職員の見解を出し合い取り組んだ。管理者は月1回の各ユニット会議や年4回の全体会議で職員の意見を聴くようにしている。気になる職員には個別で話を聴いている。遅出の勤務時間帯の変更等職員から出た気づきや意見を施設運営に取り入れている。資格所得ができやすくするように配慮する等離職を最小限にする努力をしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の身体状況の把握に努め、快適に働けるように努めている。		
13	9	○人権の尊重  法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用基準は特に設けていない。職員が笑顔で仕事ができ個性が活かせるように努めている。また悩みのある職員には相談にのったりもする。	採用選考は特定の理由で採用対象から排除をしていない。夜学に通う職員や子育て中の職員が働きやすいように、勤務時間の配慮をしている。定年後希望があれば、仕事を継続してもらっている。安心して働ける職場作りを管理者は心がけている。	
14	10	○人権教育・啓発活動  法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者への言葉使い・声掛け等気になる時は、その都度注意・指導している。	人権に関する内部研修の開催や外部研修の参加はない。ユニット内での職員会議の際には、人権と利用者の支援について話し合いを行い、情報を共有している。	人権に関する内部研修の開催や外部研修の参加をお願いしたい。
15	—	○職員を育てる取り組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に応じ研修の参加を募っている。研修に参加したスタッフには、研修報告書を作成してもらい他の職員にも報告するようにしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議等に参加し交流している。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係  サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者本人と話を出来るだけし、耳を傾け信頼関係構築に努める。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係  サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と話し合いながら安心して訴えやすい関係作りに努めている。		
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人と話し合い、入居者にとってより良いサービスを見つけれられるように努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で家族のような関係を築けるように努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会や支払いに来られた時に、入居者の状況を把握して頂く為、近況報告を行い家族の無理がないように協力をあおいでいる。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の生活の中や会話のなかで、馴染みの人の名前や場所など伝え、関係が途切れないように努めている。	職員は利用者の馴染みの人や場所について利用者・家族から情報を得ている。利用者が電話をしたり年賀状を書くのを手伝ったり、馴染みの場所に洋服を買い物に行く、知人に会い野菜を頂く等地域や地域住民との関係が継続できるように援助している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人で過ごされたい時もあられる為、状況に応じて声掛け・見守りを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもいつまでも相談に来て頂けるよう伝え今までの関係を大切にしている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の会話や様子から入居者本人の希望や意向の把握に努め本人本位の支援を心がけている。	自室でのお参りや、夫妻での入居者は、日常的にユニットを訪問しあうなど、暮らしかた、思いや意向の支援に努めている。家族の協力で年末から正月にかけて帰宅される方もある。把握困難な場合は家族からの話や、本人本位に検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人や家族から話を聞いたりしこれまでの暮らしの把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌・健康チェック表等に記録を残しスタッフ全員が目を通し把握出来るようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人の意向や家族・主治医・スタッフからの情報をもとに介護計画を作成している。	本人や家族、主治医、職員全員で気づきや意見、アイデアを反映しながら一人ひとりその時点に合った個別具体的な計画を作成している。6ヶ月毎のモニタリング又は状況変化に応じ随時介護計画の見直しを行っている。家族から了承のサインをもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を毎日記入し、スタッフで目を通すようにしている。会議で話し合いを行い、情報の共有・実践・介護計画の見直し等を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本人や家族の要望を重視し、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者本人から要望があれば支援出来るように努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者は訪問して頂ける病院に依頼している。受診は出来る限り家族にお願いをしている。出来ない方は、職員にて行っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。家族などと基本的な受診時の、通院介助の方法や情報伝達方法などについて話し合い、合意している。今現在は、訪問診療を月2回受けている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病状の変化があった時には、その都度連絡・相談が取れるようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	往診で来られる病院とは関係が取れている。また入退院時は利用者の状態の情報交換を行うようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の要望がある場合は、家族・主治医と連携を取り支援していけるよう努める。看取りの経験はある。	重度化や終末期のあり方について、事業所の対応方針があり明文化し、利用開始時に家族などへ説明している。また状況変化に応じ本人、家族、関係者で話し合い合意を図り方針を共有し支援している。利用者が安心して納得した最期を迎えられるように取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問の先生が来られた時に対処法を聞いたり会議の時に、勉強会をする位で実践力を身につけるまでに至っていない。		
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網や避難マニュアルを作成し避難訓練を定期的に行っているが、地域との連携・協力体制は築けていない。	年2回消防署立会いのもと避難・誘導・救出などの必要な訓練を行っている。運営推進会議時に参加協力を呼び掛けているがまだ参加には至っていない。自然災害予報時は前日から管理者2人で泊まり込みをしている。災害用飲・食・備品は事業所内に備蓄している。	昼夜問わず、災害に備えることが出来るように年2回のうち、1回は夜間想定で実施されることを期待する。
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ1人1人が声掛けや、言葉づかいに注意し入居者1人1人の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないように心掛けている。また気になる声掛けや言葉づかいを見かけた時は、その都度注意している。	入浴の時やトイレの時など、ドアの開閉に気を付けている。誇りやプライバシーを損ねないように心掛けているが、言葉かけで口調がきつく感じた時は、その場で注意しあうようにしている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向や気持ちを第1に考え、入居者本人に確認し強制せず自己決定が出来るように努める。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者1人1人のペースで過ごしていただき、その時々状況に合わせ希望に添えるように支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者本人の希望に添えるように支援している。又、月に1度訪問理容に来てもらっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ・配膳・テーブル拭き等、出来る範囲で願っている。	利用者には「何がたべたいか」訊ねたり、家族や地域の方からの野菜の差し入れもあり、献立は旬の物、その日にある食材で作っている。職員と利用者は一緒に準備や片付けを行い、利用者と同じ内容の食事を同じテーブルで会話を楽しみながら食している。	
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個々の食事・水分の摂取量のチェックを行い、摂取量を把握し水分摂取の少ない利用者にはジュースやコーヒー・こぶ茶など好まれる物を提供し、食事も個々にあった食事形態で出すように努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、歯磨き・うがい・義歯洗浄を行っている。磨き残しがある型にはスタッフが最後の仕上げ磨きを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者1人1人の排泄パターンや習慣を把握し、声掛け・誘導にてトイレで排泄出来るよう支援している。	排泄表で排泄の間隔や習慣を把握し、声掛けなどの誘導を行い、トイレでの排泄を継続出来るよう支援を行っている。おむつに頼らない生活を維持できるよう布パンツ・リハビリパンツ・パット類も利用者の状態に合わせて検討している。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・ヨーグルト・果物などの摂取を心掛けマッサージや散歩などの運動を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日は決まっているが、希望がある場合は入浴出来るようにしている。	週2回曜日の設定はあるが、利用者の希望に合わせて柔軟に対応し、入浴を楽しめるよう支援している。入浴拒否の人については臨機応変に、一人ひとりのタイミングで人を替えたり声掛けの工夫をしながら、個々にそった入浴の支援をしている。季節ごとの、柚子湯や入浴剤で楽しんでもらっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温を調整したり、個々の習慣にあわせる事で気持ち良く休んでもらえるようにしている。		
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りや業務日誌等への記入により全スタッフが把握出来るようにしている。また薬表を作成したり個々の名前の付いた薬ラックに日付・名前の付いた薬ラックに日付・名前の付いた薬を入れる事で誤薬防止に努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品（酒・たばこ）は家族の意向、火事のおそれ・薬の関係で出せていない。イベント事するときなどにノンアルコールのビール・梅酒・チューハイ等を出すようにしている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気温や天候にもよるが、希望があれば散歩等に出かけている。	利用者の体調や希望に合わせて車いすの人も一緒に散歩している。買出しに行く時、同伴する人もいる。遠方へは車いす用トイレを確認後、佐賀空港・筑後船小屋やお宮参りなど、外出を楽しむ支援に努めている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いは事務所にて預かっている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る限り、やり取りが出来るように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	22	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご家族との写真や入居者が書いた習字・作成した作品等を貼っている。</p>	<p>玄関を入ると自宅に帰ってきたような、ほっとするゆとりある空間になっている。またひさしのある外玄関には、ソファやテーブル・椅子が設置され、日向ぼっこや団らんの場所になっている。季節感や生活感を感じながら居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	
55	—	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングや玄関先にソファ・椅子・ベンチを置き会話をしたり、外を眺めたりして、好きな事をして過ごして頂けるよう工夫している。</p>	/	/
56	23	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使用していた馴染みの物を持ってきて頂くよう家族にお願いしている。お位牌等も持ってこられ、自室でのお参りをして頂けるよう支援している。</p>	<p>居室には利用者の家族写真や位牌、馴染みの物、飾り物が持ち込まれている。利用者の身体機能に沿った家具の配置に配慮し、各人の趣味に応じて、読書好きな人はベッドに読み物を積み、居心地よく過ごせるよう好みを活かしている。</p>	
57	—	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個々の状態・残存機能に合わせ自立した生活を送れるよう支援している。</p>	/	/

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を各棟リビングや玄関に掲示し、1人1人が理解し、理念を元に行動している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の方たちが集まる、「木室たんぼぼの会」に参加し交流している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「木室たんぼぼの会」での発表などを行っているが、地域貢献出来てとは言えない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の意見を取り入れサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり、分からないことや、困った時には相談している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠等は、基本的にはしないが、利用者の状況・状態によっては玄関の施錠等をすることもある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	オムツ交換・トイレ介助・入浴介助時に身体確認し、小さな傷・アザでも上席者に報告し記録している。又言葉の暴力等がないよう注意・指導している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加したり勉強会をしたりして、理解できるよう努めている。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時に説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を置いたり、家族が面会や支払いに来られた時に意見・要望を聞くようにしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回会議を開き、意見交換を行っている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の状況を把握し、向上心を持って働けるよう出来る限りの条件・環境になるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用に関して基準はなく、各職員の長所が発揮出来ようにしている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	面接・採用時に十分に説明し、気になる点があった時は、その都度注意し話あうようにしている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の能力に応じ研修の参加を募っている。研修に参加した職員には研修報告書を作成してもらい他のスタッフにも報告するようにしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議等に参加し交流している。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意見を聞き不安に思っている事などを取り除き安心して生活頂けるよう努める。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や不安な事に耳を傾け安心してもらえる様に努める。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人にとって何が1番良いか、家族や利用者本人と話し合い、より良い方法を見つけられるように努める。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	清掃・食事の下ごしらえや準備・洗濯・草むしり等を一緒に行う事により支えあう関係を築けるよう努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・支払いに来られた時に利用者本人の状況・状態を伝え、家族に無理のない程度の家族の協力を仰いでいる。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	日々の生活の中で馴染みの人の名前や場所を把握し、伝える事で関係が途切れないように努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り利用者同士がコミュニケーションをとれるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、いつでも相談に来て頂けるよう家族に伝え今の関係を大切にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者1人1人に寄り添い1日の中で表情や行動から生活習慣を把握し、本人本位の支援を心がけている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族または以前利用されていた施設等から話を聞きこれまでの暮らしの把握に努める。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌・健康チェック表等にその日の状況を記録し閲覧する事で状況変化等の把握に努める。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ・家族・主治医からの情報を元に、ケース会議にて話し合い介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全スタッフが必ず業務日誌・ケース記録に目を通し、情報の共有を行いより良いケアが出来るよう努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々利用者・家族の状況に応じて柔軟な支援やサービスが出来るように努める。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の残存能力を活かし、要望に対応出来るよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が往診を依頼している。受診には可能であれば家族に付き添って頂いているが、不可能であれば苑よりスタッフが同行している。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病状の変化や服薬の変更等があった場合にはその都度報告している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には利用者の情報交換を行うが、往診で来られる病院以外とは出来ていない。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や主治医も交えて話し合いを行い、全職員で支援できるよう取り組んでいる。看取りの経験はある。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の定期的な訓練は出来ていないが、主治医の先生に質問し、手当てや対応の仕方を把握することは出来ている。又、当苑看護師による勉強会を行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行ったり、緊急連絡網やマニュアルは作成しているが、地域との協力体制は築けていない。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねないよう常に心がけている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に確認し拒否がある時は無理強いしないよう心掛けている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の要望に添えるよう支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回訪問理容を利用している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ・食器拭き・おやつ作り等をお願いしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を記録し1日の摂取量を把握している。食事の量や形態は個々にあった物を提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後1人1人に合った口腔ケアを行っている。歯磨き・うがい・義歯洗浄うがいが出来ない利用者にはスポンジを利用し行っている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者1人1人の排泄パターンを把握し、声掛け・誘導にてトイレでの排泄が出来るよう支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・ヨーグルトの摂取を心がけ、腹部マッサージや運動を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日は決めているが、本人の希望があれば入浴出来るよう支援している。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温の調整や音の大きさなどに配慮し、個々の習慣に合わせて気持ち良く休んでもらえるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の名前をついたラックを目につく所に掛け、名前と日付をついた薬を入れることで誤薬や服用忘れがないようにし、薬の変更があった時は、日誌に記入し朝・夕の申し送りで伝える。又、投薬表を作りいつでも目を通せるようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品（たばこ・アルコール）の提供は、服薬・火事の関係で難しい問題です。お酒を好まれる方にはノンアルコールビール等を提供している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や気候にもよるが、出来るだけ希望にそえるよう支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は苑で管理しているが、散歩や外出の際本人の希望があればお金を渡している。又、スタッフ同伴でスーパーにおやつを買いに行くこともある。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には、出来る限りやり取り出来るよう支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや居室に、外出時・誕生日会・イベント時に撮った写真を貼ったり季節にあった飾りなどを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや玄関前に椅子やソファやベンチを設置し、外の風景を眺めながらゆっくり会話出来る空間を作っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者によってベッドを使用したり出来るだけ自宅で過ごされていた時に使用されていた物を使用して頂くようにしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者本人の能力・機能に合わせ、自立して生活出来るように見守り・介助を心がけている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない